

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 早鞆 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

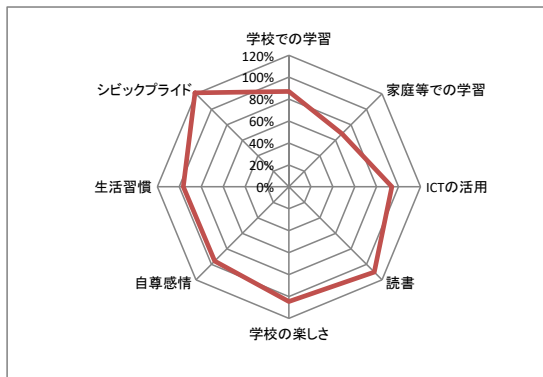
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的や場面に応じて質問する内容の検討に関しては全国平均と比べ理解度が少し高かった。「聞き取ったことを基に目的に沿って自分の考えをまとめる力」や「文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する力」が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話すこと・聞くことにおける分野で目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。	
	努力が必要な問題	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題。我が国の言語文化に関する事項。	
数学	全体的な傾向や特徴など	反比例の意味や累積度数の意味の理解は、全国平均とさほど変わらなかった。公立入試に沿った問題が多く、箱ひげ図・証明問題等が課題である。関数の問題を苦手とする生徒が多く、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることや、事象を数的に解釈し、問題解決の方法を数的に説明する問題に対応する力が課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	反比例の意味を理解している。累積度数の意味を理解している。	
	努力が必要な問題	関数の問題全般。数と式の分野においては、数と整式の情報の計算に関する問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる生徒は全国平均とさほど変わらなかった。「聞くこと」に関しては、情報を正確に聞き取る力が課題である。「読むこと」に関しては、社会的な話題について短い文章の要点を捉える分野や未来表現における分野も苦手とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。	
	努力が必要な問題	未来表現（be going to）の肯定文を正確に書く問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「友達関係に満足しているか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」の問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。 ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」という問いに対して約90%以上の生徒が肯定的に回答している。それに対し、これまでの学習においてタブレットを使用した場面がやや少なかったという状況がある。今後の課題として日ごろの授業の中や、朝自習・早朝タイム等で進んで使用していく必要がある。また、「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合も同様に低かった。今後は、長期休業中にタブレットを持ち帰らせたり、宿題でタブレットを使った課題等を活用していきたい。 ・「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合が全国平均より20%以上低かった。褒められる場面を作ったり経験をさせたりし、自己肯定感を高める取組を行ってきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基本的な分野は勿論のこと、単語や決まりについてはどの教科でもきちんと押さえるようにする。自分の考えを相手に伝えるツールとしてICTを活用し、クラス全体で共有できるような場をより多く作っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

現在ICTを活用した家庭学習を長期休業中の取組として、環境を整え、進めている。現在、マイトレノートの取組に関して1、2年生は定着してきているところである。今後は学校全体で進めていくことができるよう、体制を整えていく。